

5歳児 年間指導計画

年間目標		●生活に見通しを持ち、遊びや生活を進めていく中で積極的に活動にかかわったりしながら、園生活を十分に楽しむ。 ●友達や教師の話をよく聞き、相手の思いを受け入れながら、自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝える。 ●自分なりに考えた工夫したりしながら繰り返し取り組み、やり遂げた満足感を味わう。 ●自然や身近な事象に興味・関心を持ち、好奇心や探究心を高める。			
期		1期(4・5月)	2期(6月～8月)	3期(9月～12月)	4期(1月～3月)
育てたい子どもの姿	新しい環境に興味関心を持って関わろうとする。 年長になった喜びや自覚を持ち、進んで生活や遊びに取り組む。	自分なりの目的を持って、友達と関わりながら遊びを広げていく。 運動遊びや勝敗のあるゲーム遊びに興味を持って取り組む。	体を動かすことに積極的で、自分の課題をもって、がんばろうとする気持ちが高まる。 友達とのかわりを深めながら自信を持って生活に取り組む。	生活や活動に見通しを持って自分たちで進めようとする。 自分の考えを持ち、自分で行動し、最後まであきらめずに活動する。	
	新しい環境に慣れ、友達との遊びや生活を楽しむ。 進級した喜びを感じ、自覚を持って、生活する。 身近な自然に興味を持ち、親しみをもつようになる。	友達と互いの思いを伝え合いながら遊びを進める。 自分の力を十分に発揮し、遊びや活動に取り組む。 身近な自然にふれ、見たり、試したり、考えたりして遊ぶ。	行事を経験したことで、自信を付与主体的に行動する。 共通の目的をもち、友達と相談したり、協力したりしながら活動に取り組む。 自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり、表現したりする。 身近な自然を見たり、接したりして、考えたり、感動したりする。	自分らしさを大切にしながら、協力して遊びや生活を進めていく充実感を味わう。 友達と自分の思いや感じたことを豊かに表現し合い、互いの成長を喜び、認め合う。 就学に向けて期待を持つと共に、ふさわしい態度を身につける。	
学校行事		□入園式 □歓迎レク □保育参観 □避難訓練 □公園探検	□交通安全教室 □全校校外学習 □七夕集会 □保育懇談会	□避難訓練 □運動会 □学習発表会 □公園探検 □保育懇談会	□いちご狩り □保育参観 □お別れ遠足 □卒園式
内容	健康	十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 食事をすることを楽しむ。 園生活での決まりを確認し、進んで守る。 生活の中で必要なことに気づいて、自分でしようとする。 きまりの大切さに気づく。 安全に気をつけて、遊具や用具を正しく使う。 年中児に関わり、親しみをもつ。 友達や教師と過ごす楽しさを味わう。	戸外遊びや水遊びに進んで参加し十分に楽しむ。 自分で気付いて適切な休息や水分補給を行ったり、汗の始末や衣服の調整を自分でしようとする。 友達や教師と楽しく食事する。 ルールのある遊びにも進んで参加する。 自分なりに目的意識をもち、挑戦していこうとする。 遊びの中で考えの行き違いや、相手にも気持ちがあることに気づく。	いろいろな運動に興味を持ち、進んで取り組み、友達と一緒に遊びを発展させる。 力を出し、競い合ったり、応援したりして、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 友達と話し合ったり、協力したりして、遊びや生活をを進める。 友達と十分にかかわり、自分たちで遊びや生活をを進める中で、相手の気持ちに気づき、受け入れる。 園生活の流れがわかり、おおまかな見通しを持って行動する。 遊具や用具を理解し、安全に使う。 生活の中の言葉や文字・記号に興味をもち、遊びや表現として取り入れる。	冬を健康に過ごすために、手洗いやうがい習慣を身に付ける。 園生活の中で、場面に応じた行動ができる。 やっていいこと、悪いことを自分で考えて行動する。 十分に体を動かし、いろいろな運動遊びに取り組む。 目的をもって遊びや生活をを進める。 園生活の中で、生活に見通しをもち、時間を意識して行動する。 就学への喜びや期待を膨らませ、意欲的に生活する。 いろいろな伝承遊びに親しむ。 冬の自然現象に興味や関心を持ち、遊びに取り入れるとともに、春の訪れを感じる。
	人間関係	身近な動植物に親しみ、触れたり世話をしたりする。 自然物を遊びに取り入れようとする。 教師や友達の話を聞き、内容を理解する。 自分の気持ちを言葉で伝えようとする。	夏ならではの遊びを楽しむ。 生活に必要なきまりを自分たちで考え、理解して行動する。 季節の変化など身近に起こる事象に関心を持ち、試したり、調べたりする。	感じたり、体験したりしたことを言葉で表現することを楽しむ。 身近な自然に触れ、季節の変化を感じ、発見や感動を共有する。 秋の収穫物の収穫の喜びや楽しさを感じる。 遊びに必要なものを、材料や用具を工夫して作り、イメージを実現しようとする。 物語などに親しみ、想像を膨らませたり、表現したりすることを楽しむ。	生活や遊びの中で、言葉や文字を使うことに関心を持つ。 自分の気持ちをその場にふさわしい言葉や相手にわかるように伝える。 相手の話の内容を理解し、注意に聞く。 友だちと一緒に絵本などの世界を共有し、楽しむ。 様々な素材や用具を目的に合わせて選び、表現する。 友達の表現にも関心をもつ。 みんなで心を合わせて歌うことを楽しむ。 成長した喜びを味わい、共に過ごした友達や年中児、身近な人への感謝の気持ちを持つ。
	環境	いろいろな素材を使って、自分のイメージに合わせて作ろうとする。 感じたことを描く、作るなどして表現を楽しむ。 友達と一緒に歌うことを楽しむ。 音楽に合わせて自由に体を動かしたり、教師の真似をして踊ることを楽しむ。 絵本や紙芝居に親しむ。	動植物の世話を通して、命あるものの存在に気づき、大切にすること。 栽培物の成長に関心を持ち、収穫することを楽しんだり、食べる喜びを感じたりする。 公共の場での行動の仕方を理解して、みんなで気持ちよく生活できるようにする。 土、砂、水などを使う活動の中で、そのものの性質を知り、それをわかって遊びに取り入れる。 遊具や用具の使い方に慣れ、安全に使う。 相手の話に関心を持ち、よく聞く。 自分の話を相手に分かるように話す。 絵本などをイメージを広げながら、見たり聞いたりする。 見たことや感じたことをいろいろな素材を使って、工夫して表現する。 友達と一緒に、曲の雰囲気を感じ、リズムカルな動きを楽しむ。 絵本などに興味を持ち、想像する楽しさを味わう。	活動への多様な取り組み方を受け止め、探求心や好奇心が満足できるような環境を構成する。 自分たちで遊びに必要な場作りをし、目的に向かって考えたり、工夫したりしながら充実感を味わえるようにする。 力いっぱい活動に取り組む、おいしく食事をとれるようにする。 運動会や発表会に向けての活動量を考慮する。 活動意欲の高まりや競争心、達成感を認め、自信がもてるようにする。 クラスの中で、一人ひとりのよさを認め合い、子ども同士のつながりがさらに深まるようにする。 遊びの中で、体の様々な動きを体験できるような環境を構成する。 夏休みからの生活リズムを立て直し、健康で安全な園生活を送れるようにする。 一日の見通しが持てるようになった子どもたちが、自分たちで考えて進めていく活動を支え、実現できるように援助し、自信を持てるようにしていく。 就学を意識して、一定時間集中して取り組む課題などを取り入れていく。	クラス全体で楽しめるような活動を上げ、協同する楽しさを味わえるような場を設ける。 自然と触れ合う機会を設け、試したり、発見したり、考えたりできる楽しさを味わえるようにする。 年長児としての自分たちの役割を、年中児にわかるように伝達したり頼んだりする場を計画する。 手洗いやうがいの大切を、機会を捉えて繰り返し伝えていく。 卒園までの時間を大切に、園生活を振り返る場を設けたり、クラス全体で過ごす楽しさを子どもたちと味わう。 子どもたちの生活習慣が身についているかを改めて見直す。
	言葉				
	表現				
◎環境構成 ◇援助		◎安心し、ゆとりを持って生活ができるように、活動の流れに沿って時間や場を構成する。 ◎教師が気持ちを合わせて見守りながら、年中児と年長児の良い関係が保てるような雰囲気大切にしていこう。 ◇自分のことは自分でできるよう、言葉かけと環境設定を工夫する。 ◇年長になった喜びや不安を伝え、個々に応じて丁寧に援助する。 ◇年長になり、意欲的に挑戦しようとする気持ちや役に立ちたいという気持ちを言葉や態度で認めていく。 ◎安心、安全を基盤に、子どもの心のケアをしていくとともに、年長児として、自分で考え、行動できるように、一人ひとり丁寧に関わる。	◎気候や気温に応じ、子どもの健康に配慮した遊びを行えるような環境を構成する。 ◎友達と一緒に活動できるように、物的・空間的な環境の構成と時間を配慮する。 ◎生命の大切さに気づくことにつながる体験ができるようにする。 ◎身近な自然とふれあう中で、興味関心を追及したり、継続して成長を見守ったりすることができる環境を整える。 ◎園内外の環境を把握し、危険のないよう整えておく。 ◎相手の気持ちを感じ取り、友達との関係を深めるきっかけとなるように、仲間になったり、一緒に考えたり、声をかけたりする。 ◇子ども同士の気持ちの行き違いや葛藤に寄り添い、自分で気持ちの切り替えができるように援助する。 ◇子どもが助言を求めてきたときは、助言の仕方を工夫し、子ども自身が考えたり工夫したりする機会を奪わないよう配慮する。 ◇水遊びでは、水に十分親しませながら、水の危険性も伝える。 ◇気温が高くなることもあるので、水分補給の大切さを伝え、補給の回数等にも注意する。	◎活動への多様な取り組み方を受け止め、探求心や好奇心が満足できるような環境を構成する。 ◎自分たちで遊びに必要な場作りをし、目的に向かって考えたり、工夫したりしながら充実感を味わえるようにする。 ◎力いっぱい活動に取り組む、おいしく食事をとれるようにする。 ◎運動会や発表会に向けての活動量を考慮する。 ◎活動意欲の高まりや競争心、達成感を認め、自信がもてるようにする。 ◎クラスの中で、一人ひとりのよさを認め合い、子ども同士のつながりがさらに深まるようにする。 ◎遊びの中で、体の様々な動きを体験できるような環境を構成する。 ◎夏休みからの生活リズムを立て直し、健康で安全な園生活を送れるようにする。 ◎一日の見通しが持てるようになった子どもたちが、自分たちで考えて進めていく活動を支え、実現できるように援助し、自信を持てるようにしていく。 ◎就学を意識して、一定時間集中して取り組む課題などを取り入れていく。	◎クラス全体で楽しめるような活動を上げ、協同する楽しさを味わえるような場を設ける。 ◎自然と触れ合う機会を設け、試したり、発見したり、考えたりできる楽しさを味わえるようにする。 ◎年長児としての自分たちの役割を、年中児にわかるように伝達したり頼んだりする場を計画する。 ◇手洗いやうがいの大切を、機会を捉えて繰り返し伝えていく。 ◇卒園までの時間を大切に、園生活を振り返る場を設けたり、クラス全体で過ごす楽しさを子どもたちと味わう。 ◇子どもたちの生活習慣が身についているかを改めて見直す。
家庭・小中学部との連携		・幼稚園での生活する姿を知らせ、親子で期待を膨らませていくことができるようにする。 ・子どもが自分でやろうとしている気持ちを支えて、成長の節となるように認めていくことの大切さを提案していく。	・汗もかきやすく、水遊びも行う時期なので、着替えの準備や体調管理に気を付けるよう促す。 ・夏休みの過ごし方について、子どもができる手伝いなどを提案し、家族の一員として生活していくことの大切さを伝える。 ・試行錯誤しながら成長するということや時間がかかっても、温かく見守り、励ましていくことの大切さを伝える。	・小中合同の行事に参加しながら、交流を図る。 ・いろいろな行事に参加することを通して、保護者も楽しみながら子どもの成長を実感してもらい、共に喜び合えるようにする。 ・就学前の心構えや身につけておきたい生活習慣などを保護者に伝え、安心して入学の準備ができるようにする。 ・年末年始などではふだんできない挨拶の仕方やマナーを育てていけるように、保護者に伝える。	・1年間の成長をともに喜び、安心して小学校生活がスタートできるように保護者と連携を密にする。 ・小・中学部との関わりを通して、学校生活の楽しさを感じ、就学に期待が持てるようにする。 ・スムーズに小学校生活が迎えられるように小学部の教員と連携する。 ・園生活を通して培われた経験や人間関係は、保護者にとっても、子どもたちにとっても大切であることを伝え、共に卒園を祝う。